

苦情等受付解決結果の公表

受付日 令和5年9月25日  
事業所 短期入所生活介護事業所  
苦情等の内容

- ① ショートステイ退園後、下着の洗濯物が入っていない。と連絡あり。
- ② その後ご家族が確認すると、下着を2枚重ね着をし、紙パンツを履いていなかった。確認不足ではないか。

和光園の対応

- ① 確認不足、配慮が足りなかったこと。ご自分でトイレや着替えもされている方なので、声掛けも不十分だったことなどお詫びする。
- ② 次回より、着替え後の衣類は、カバンの中へしまわずにスタッフ預かりとする。
- ③ 退園前に着衣の最終確認をさせていただく。

結果

以降、重ね着や紙パンツの履き忘れなく、サービス利用を継続されている。



三田村さん。  
82歳のお誕生日に、ご家族よりお菓子、お花、メッセージが届き、じっくりと読んでおられました。和光園の調理員さんの手作りケーキも召し上がっていただきました。

ハロウィンランチ♪  
賑やかな彩りでハッピー気分！



研修報告 『褥瘡対策WEBセミナー』

～効果的な栄養ケアのためにベッドサイドでみること、できること～

講師 四谷 淳子氏

福井大学学術研究院医学系部門看護学領域  
コミュニティ看護学(老年看護学) 教授

血液データ以外で観察することによって栄養状態を判断する。不足したエネルギーは、少量で高カロリーなアイス、プリン、チョコレートなどを取り入れる。調理の工夫として、卵とじ、マヨネーズやごま油、とろけるチーズの活用がある。

食事の際の姿勢として、仙骨関節が開かないようサポートする。車いすや端座位では丸めたタオルを逆ハの字に置いてから座面クッションを置く等の工夫をする。また足を踏み込める状態にする。食事の際に、頸部が後傾していたり、仙骨座り等の座位の不安定さがあり、食事がきちんと視界に入らないということが起こらないよう気を付けていきたい。嚥下が悪い方はしっかり飲み込んだかを確認してから次の食事を勧めること。また1回の嚥下では、口の中に食べ物が残っていて誤嚥につながるため、空嚥下を促すなどを行い、誤嚥を防止していきたい。

低栄養から褥瘡発生につながるため、マット選び、体位変換の時間、食事内容、食事の際の姿勢に十分気を付けていきたい。またなぜ食べられないのかをアセスメントする観察力を養っていきたい。

報告者 遠藤(看護職員)

十三夜は、豪華な海鮮丼。食べ応えがありましたよ！



十月の褥瘡対策委員会

理学療法士 井出先生による指導内容を確認し意見交換しました。

- ・指導していただいたポジショニング、写真を掲示してわかりやすいようにしている。U字クッションの使い方が浸透してIさんは楽になっている。

- ・首の拘縮について、マッサージ方法を学んだ。首の拘縮は、誤嚥にもつながるので、枕と肩に隙間を作らないようにしたい。

- ・Iさん 前傾姿勢に丸まっているので、顔を上げるように介助している。首の後ろをマッサージし、緊張をとること。首、足に枕を入れるよう指導していただいた。

- ・二回にわたる訪問指導にて、とてもわかりやすく丁寧に教えていただき、ご利用者の状態が良くなってきたのも実感できています。

- ・ポジショニングは時間経過により変わっていくので、姿勢が崩れそうになっていたり、崩れていたら都度対応していきましょう。

委員長 山下

ありがとうございます

細田様、池本様(野村様)、森様、矢田部様(松田様)、北畑様(今崎様)、中矢様、児玉様(前田様)、梶山様、麻生様、西名様、加藤様、佐古様(加藤様)、日本の童謡・唱歌で元気になる会様

十月の事故防止委員会

- ・靴下をはかせる際に、爪が引っ掛かり剥がれてしまう事故がありました。靴下を履く際は、まず足の爪を確認し、危なそうなきときは、しっかりと靴下のはき口を広げて履かせる。ナースに報告して先に処置してもらおうなど気にかけて介助しましょう。
- ・義歯の金具部分で口腔内を傷つけてしまう事故がありました。義歯を装着する際は必ず両手で両サイド同時に着脱するように心がけてください。特に義歯の金具部分が多かったり、鋭利だったりする方の場合には気を付けてください。
- ・足の爪が肥厚しており、切るのが難しい方は、ナースに報告してください。
- ・床コイル、座コイルの使用者が増えています。スイッチの入れ忘れが無いよう、床コイルは必ず踏んで鳴ることを確認することを徹底。座コイルは鳴ったら必ず状況確認を行うよう(他者介助中の場合は終了次第)にしていきましょう。
- ・車いすの移動介助。職員同士で介助しあうという体験をする結構怖いことがわかります。機会があればぜひ体験を。カーブを曲がる際や、エレベーターの乗り降りの際など以外に怖いです。
- ・新規のご利用者がおられますが、今のところ環境の変化による大きな事故もなく過ごされていると思います。職員の皆さんの情報収集、共有、臨機応変の対応がうまくできているからだと思います。今後も引き続きご利用者と職員にとってよい関係が築け、お互いに安全・安楽な介助ができるようご協力をお願いします。

委員長 高宮

あとがき

感染対策を行ったうえで、できることを少しずつ企画しています。ご利用者にとって「非日常ってこんなに大切なんだな～」とひしひしと感じています。寒暖の差が激しかったり、季節の変わり目でもあり、体調の管理が難しい時期です。ご利用者の健康管理はもちろん、自分自身の心身のバランスも整える工夫をしていきたいです。来る冬に備えて、元気をたくわえていきましょう。竹